2024 年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間　　自：2024 年４月１日

　　至：2025 年３月３１日

評価基準日　　2025 年４月１日

学校関係者評価委員会　2025 年５月２６日

評 価 委 員　　７名参加

学校法人栗岡学園

四条畷看護専門学校

《 評価項目の達成および取組状況 》

1　教育

2　施設・設備

3　学生サービス

4　教育面などでの特筆すべき取組

教育分野　看護

1　教　　育

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1．カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	・看護に必要な知識・技術・態度を修得し社会に貢献できる看護師の育成のためDP、CP、APが反映できるカリキュラム編成に努めている。	・保健医療チームの一員及び地域に貢献できる看護師育成のため関連施設の学生と共同学習を行うことで学生の視野が広がった。 ・看護実践能力を段階的に向上できるよう概論、援助論、実習と系統立てて配置している。 ・准看教育からスムーズに移行できるように、基礎教育から段階的なカリキュラムになっている。	5　(4)　3　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分	・新カリキュラムに伴い、DP、CP、AP を反映するカリキュラムを編成し、随時学習内容を評価しながら進めたため概ね期待する結果となったが、課題も明確になったので更に学習内容を精選し対応していく。	合同授業について ・有意義な授業だと思われる。 ・内容とか、時間とかどのようなものか？ ⇒　1年生の後期に15時間で行われる授業です。 まず、看護・理学療法・作業療法それぞれ各校の先生から学びます。 その後、リハビリ専門学校の学生と合同でグループを作り、実際の事例（例：脳梗塞患者の在宅療養）について、各専門職（看護、理学、作業）の視点から意見交換。 患者さんが地域で療養するために必要な支援や連携のあり方を、実践的に学び合います。 ・合同授業は多職種連携の重要性を学ぶ上で非常に有益。施設でもPT・STなど多職種との連携会議があり、それぞれの職種の意義を理解することは不可欠。 自施設では、職種間の垣根をなくし、互いの尊厳を重んじる「さん付け」文化がある。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
2．カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	・実習先の病院指導者や卒業生から職場のニーズを得て、カリキュラムに反映させている。 ・実習施設からも講義に来ていただき現場を意識した授業内容になっている。	・卒業時の学生アンケートで概ね教育内容に満足していたが、卒後の看護技術(診療の補助)に不安があったため、卒業前に技術演習の科目を編成し、実施することができた。	5 (4) 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・就職先に卒業生の勤務状況のアンケートやインタビュー、交流会等を今後も継続していく。 ・計画的に技術練習/演習の機材を購入できるよう計画する。	・実習にきた学生は皆生き生きとしており、発表も活発で素晴らしい。
3．授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	・指定規則を基本として配分できている。	・学習の順序性や学習効果を考えた時間配分を心がけているが、やや過密になっている。	5 4 (3) 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・教員・講師間で情報を共有しながら授業内容を精選し時間割を作成する。 ・外部講師と調整し授業時期や終講試験日の調整を行う。	
4．シラバス（授業要項）を作成していますか(内容は適切ですか)	・教育計画に沿って、シラバスを作成している。 ・どのような学習をするのかイメージできるようになっている。	・シラバス、実習要項は学生・教員に周知している。 ・シラバスは学内教員だけでなく外部講師とも共有可能になっている。	5 (4) 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・シラバスについては概ね予定通りであるが、さらにDP、CPが反映できるよう評価していく。	
5．カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	・年度末の会議に加え適宜教務会で見直しを行っている。 ・講義終了時に授業アンケートを行っている。	・授業終了時及び卒業時の学生アンケートを反映させている。学生からは概ね満足との評価を得ている。 ・単位（時間数）が少し増えたためやや過密になっている。	5 4 (3) 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・学科領域が横断的に連携できるよう検討する。 ・令和 6 年度は新カリキュラムで教育を受けた学生が卒業した。概ねDP を達成したが、一時期、過密スケジュールとなっているため、授	

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
				業内容の重複等を改善していく。	
6．テキストや教材をどのような基準で採用していますか	・テキストは、科目目標や国家試験出題基準を参考に、教務会議で検討し採用している。	・ＩＣＴ教育を見据え電子書籍を採用したため、書き込みや検索がしやすい環境となった。	5十分 ← (4) 3ふつう 2 → 1不十分	・臨床現場のイメージ化が図れる電子書籍の選定を行う。 ・ＩＣＴ教育のための環境整備を充実させる。	
7．目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	・科目の目的・目標に沿って評価している。 ・成績評価方法は学生便覧及びシラバスに明記している。	・成績評価は、科目担当が基準に則り公平に評価している。 ・成績評価の見直しをその都度行っている。 ・成績評価にかかわる問題が生じた場合や成績不良者の情報共有は、教務会議で検討し学生、保護者へ説明している。	5十分 ← (4) 3ふつう 2 → 1不十分	・特に実習評価は差異が生じない、また実習の到達度理解できるようルーブリック評価表を導入した。令和７年度は本格的導入になるため、学生の理解度を確認しながら進めて行く。	
8．学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	・学生の理解度に応じ、授業形態は、講義・演習・実技・実習を組み入れている。学習方法は、アクティブラーニング・ＰＢＬ・ディスカッション・プレゼンテーション等を実施し主体性を尊重した参加型の授業を実施している。 ・レポート課題などで学習の理解度を把握している。	・学生の質問の機会を作るなど学生が積極的に授業に参加できるようにしている。 ・国家試験対策では特別講義とチューター制を取り入れている。	5十分 ← (4) 3ふつう 2 → 1不十分	・主体的に学習時間が確保できるよう、学生の状況を理解しながら支援していく。 ・授業研究への取り組みを検討する。 ・定期的なアンケートや確認テストを行っていく。	

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
9．学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	・長期休暇時には学習課題を確認し学力不足の学生には面談を行っている。 ・学力不足の学生にはランチョンセミナー等を開催している。	・1 年次は学習対策委員を中心に主体的学習の実施､2年次はチューター制を活用し国家試験対策を個別指導している。 ・成績不良者に対し担任・副担任・教務主任を中心に面談を実施し学習方法の指導を行い成績アップにつなげている。	5 (4) 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 分 う 十分	・入学直後から学力不足の学生に対し、学習方法の指導を今後も継続していく。 ・教員同士で情報共有を行い、教員全員が連携しながらのサポート体制を工夫し継続する。	・先生方は、熱心に取り組んでいる。 ・看護過程の展開など、実習前に不安を抱える学生が多い。 ・個別指導に来ない学生もいるため、昼食時に参加自由の勉強会（ランチョンセミナー）を実施。 ・教員が解説し、学生は弁当を食べながら聞いている。 ・短時間でも勉強しようという姿勢は素晴らしい。 ・先生方の負担も大きい。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	・専門職業人としてふさわしい品性を備えられるよう随時指導している。 ・学生の自尊心の尊重を基本理念としている。 ・校内禁煙	・便覧に則りながら教務会議で協議し共通認識をもち随時指導している。 ・なぜ必要なのかとわかるよう説明している。 ・年齢層が幅広いため、学生を尊重しながら指導を行っている。 ・特に実習中には患者との関係を通して指導することで身についている。	5 (4) 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 分 う 十分	・教職員全員で意思統一を図り、指導を行っていく。	
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	・教育の質向上の目的で、個々の教員のニーズに合わせた研修や講習会が 2 回/年参加可能である。 ・伝達講習を義務化し知識を共有している。	・今年度は、教員が 2 回/年研修会に参加することができ知識を得ることができたが、タイムリーに共有することが難しかった。	5 (4) 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 分 う 十分	・今後も教員が年 2 回研修・研究会に参加し、タイムリーに知識を共有し教育の質を向上していく。 ・外部講師や他校の授業見学等の機会を設ける。	

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	・科目終了後に授業アンケートを実施している。集計後は教員にフィードバックし、改善に繋げている。	・授業アンケートを実施することで、教員の課題が明確になり、授業改善に反映できている。学生の意見も担任を中心に確認している。しかし、授業評価が講義終了後であるため授業に反映できない時がある。	5十分 ← 4 3ふつう 2 → 1不十分	・授業アンケートは継続する。 ・学生の意見をタイムリーに確認できるよう今後も継続していく。	

2　施設・設備

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1．教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	・指定規則に準じ人数に見合った、教室や付帯設備である。	・ＡＶ機器、エアコン等は、徐々に最新のものを設置している。 ・グループワークや面談に使用できる場所が少ない。	5十分 ← 4 3ふつう 2 → 1不十分	・校舎、付帯設備に問題が生じた場合は、即時対応し良好な学習環境を確保する。	・合同授業で使用する共有の実習室はあるのか？ ⇒　授業ではリハビリ専門学校の部屋を借りているが、実習でもリハビリ校の学生と交流できる環境が理想である。まだ実現できていない。
2．図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	・指定規則に準じた蔵書・教材を購入している。 ・司書が開室し定期的に蔵書点検を行っている。	・書籍の整理はできており、検索システムがある。 ・学生が実習や看護研究を行っていくうえでの貸出可能な文献が十分でなく年数も経過している。	5十分 ← 4 3ふつう 2 → 1不十分	・最新の図書を継続的に増やす。 ・学生のニーズに合わせた開室、使用方法を検討する。	
3．実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	・指定規則に準じている。 ・学生の人数に十分応対できる実習室の広さや個数は確保されている。	・最新の機器を購入することで、学内実習や卒業前技術演習に取り組むことができた。	5十分 ← 4 3ふつう 2 → 1不十分	・演習用物品を計画的に購入できるよう検討する。 ・定期点検とともに、授業終了後はその都度点検を行	

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
		・備品の取扱いを通し物品の手入れや大切に扱うことが学べている。		う。 ・破損・汚染時は迅速に対応する。	
４．最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)	・リモート学習ができるよう Wi-Fi 環境の整備やパソコンを購入した。	・Wi-Fi 環境を整えた。 ・情報科学の授業は、関連校の教室を利用している。 ・視聴覚機器，ＰＣソフトは随時新しいものを購入している。	5 4 (3) 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・学生が使用できるＰＣの設置ソフトの更新などセキュリティ対策を行う。 ・卒業前演習でも臨地に対応できるような備品の充実を行う。	ICT 活用状況について ・学生は共有のタブレットや PC で授業を受けているのか？ ⇒学生は１人１台タブレットを所有し、教科書も全てデータで格納されている。 ・アンケートもウェブ上で実施しているのか？ ⇒授業アンケートは紙媒体。学生生活に関するアンケート（例：制服廃止）は Google フォームを使用し、匿名性を確保している。
５．ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)	・徒歩圏内に寮母が在住する女子寮(個室)を保有している。 ・寮母と学校との連絡は図れている。	・築浅の綺麗な施設で、学習環境に恵まれている。 ・Wi－Fi 環境が整っている。	5 (4) 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・学生のニーズに合わせて有効に活用していく。	
６．体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)	・関連施設の体育館を使用している。 ・学生行事、サークル活動や地域住民にも開放している。	・学校行事など体育館利用を行っている。	5 4 (3) 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・利用がスムーズになるよう、関連校と連携し活用を進めていく。	

3　学生サービス

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1．クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	・クラス担任を中心として役割別担当も機能させながら、学生に対応している。	・教務会議で学生の状況報告を行い、教員全体で学生支援にあたっている。 ・学生の抱える問題も多様化し担任に負担が偏っている。	5十分　(4)　3ふつう　2　1不十分 ← →	・担任に負担が偏らず学生対応に余裕ができるよう副担任を増やし対応していく。 ・必要に応じて支援体制を調整する。	
2．学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	・専門家が定期的に来校し、希望する学生にカウンセリングを行っている。 ・教員とカウンセラーが連携を取りながらフォローしている。	・個室で実施しプライバシーは遵守されている。 ・教員は、傾聴、受容、共感的な対応で支援している。	5十分　(4)　3ふつう　2　1不十分 ← →	・専門家との連携の強化を図る。 ・教員に対する心理相談の教育プログラムを検討する。 ・心理相談が受けやすい環境を調整する。	
3.教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	・２階にロビー、３階に更衣室/多目的室があり、語り合いや休憩場所として活用している。	・多目的室、カンファレンス室を設けたことで、自由に自己学習ができるようになった。 ・ロビーや更衣室に休憩スペースがあるが空調設備がない。	5十分　4　(3)ふつう　2　1不十分 ← →	・ロビー/更衣室の良好な環境整備を進める。	
4.食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	・売店はないが、学校が選定した弁当業者を学生は活用している。 ・昼休憩中は、近隣のコンビニを利用している。	・弁当業者の利用者数は多い。 ・教室以外に多目的室も使用し食事スペースを確保した。	5十分　4　(3)ふつう　2　1不十分 ← →	・昼食場所が限られているため、気持ちよく利用できるよう環境を進める。	

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
５．学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	・関連医療施設に奨学金制度があり、就職も可能である。	・学校見学会や入学時に奨学金制度について説明を行っている。	5 4 (3) 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・学校見学会などで、奨学金制度の説明を継続する。	
６.その他	・学生生活が有意義なものになるよう、学生の意見を確認しながらルール変更を行っている。 ・スクールバスの運行を行っている。	・社会情勢に伴う制服の廃止や学習環境については、学生の声が届くよう目安箱の設置やアンケートを実施し、その結果を資料とし改善に努めている。 ・スクールバス乗車を希望している学生は、ほぼ乗車できているが、乗車できない時期が若干ある。	5 (4) 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・今後も学生の声が届くよう、学生との関係構築を図りながらアンケート等を継続し改善に努める。 ・スクールバスの運行の続行。 ・早朝乗車の学生の対応を充実させる。	

４　教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

〈学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組み〉

・国家試験対策のチューター制に加えさらなる強化を図るため、実習終了後より特別講義を行うなど支援した。看護師国家試験合格率は 97.2%であった。

・関連校（理学療法学科、作業療法学科）との協力体制を図り、共同学習を通し多職種連携の認識が深まっている。

・地域のボランティア活動及び学校運営協議会へ出席し、地域との交流・連携を深めることができた。今後も交流や連携を図り、更なる関係性構築に努力したい。

・新カリキュラムによる学生の卒業年であった。卒業するにあたって、看護の知識や技術を含めた看護実践力についてやや身についているか不安と回答したものがいたが、反面、倫理性・看護実践力・社会的貢献・協調性・自己研鑽などを獲得したと回答する学生が多くなった。更に DP に到達できるよう学習内容を精選していきたい。

・平成 31 年 4 月より厚生労働大臣が指定する「専門実践教育訓練給付制度指定講座」に認定された。また令和２年 4 月には、高等教育の修学支援新制度の対象機関となった。今回も認可が継続されたので、学生の経済支援サービスのため、今後も学校を上げ学習支援に取り組んでいく。

委員からの指摘事項

◇准看護師資格を持つ学生が 2 年間で看護師資格を取得する過程での困難さについて伺いたい。

◇学生の学習時間、意欲、特性、また教員が指導で特に苦労している点があれば教えてほしい。

：回答

学生の学習状況について

◇本校の学生は准看護師資格を保有しており、就労経験者とストレート進学者が混在している。

◇本来は准看護師課程の知識を土台とした「積み重ね学習」が理想だが、多くの学生は准看護師資格取得時点で知識がリセットされてしまう傾向がある。

そのため、解剖生理学のような基礎科目も再度指導する必要があり、実質的には「ほぼ真っ白に近い状態」からスタートする学生も少なくない。

教員の指導における苦労について

◇知識の再構築と意識改革の困難さ：

最大の課題は、准看護師試験（合格ライン約 6 割）と看護師国家試験（必修問題は 8 割正答必須）の合格基準の違いに対する学生の意識改革である。

学生には「准看護師の時に学習したから大丈夫」「6 割取れれば合格」といった意識が根強く残っており、これを「8 割を目指す必要がある」という意識に変えることに非常に苦労している。

国家試験で 8 割の正答率を達成することの大変さを理解させ、日々の継続的な学習習慣を身につけさせる指導が、教員にとって最も労力を要する点である。

◇時間的制約： 学習時間に十分な余裕がないと感じている学生が多い。

◇志望動機について

：回答

最も多いのは「准看護師で終わりたくない、看護師資格を取りたい」という強い意志。出身校の先生に勧められて入学するケースも多い。

准看護師資格では就職が難しい（特に急性期病院）ため、看護師資格取得を目指す学生も多い。

◇シングルマザーや 18 歳の学生など、様々な学生の学習習慣をどのように定着させているか？具体的なプログラムや意識していることは？

：回答

学生の年齢層は 18 歳から 50 代までと幅広い（平均 35～36 歳）。

年長の学生は時間の使い方が上手く、授業に集中し、疑問をその場で解決する傾向がある。

若い学生は学習習慣が身についていない場合があり、国家試験を見据えた個別課題（範囲指定の学習、文献購読など）で対応している。

年長の学生は「看護師になる」という強い意志を持つ傾向がある。

学生同士で支え合う（お母さん的・お姉さん的存在によるフォロー）様子が見られる。

人生経験が豊富な学生は、他者の痛みが分かる看護師になれる可能性がある。

個人の努力も大きく、例えば子供と一緒に勉強して卒業した学生もいる。

◇地域と連携した実習では、どのような効果があったか？

：回答

地域連携実習の導入により、学生の学びに顕著な効果が見られています。

以前は、学生の持つ患者像が入院患者のイメージに偏りがちでしたが、実際に地域を歩き、地域包括支援センターやフィットネスクラブ、小中学校、産業保健の現場など、多様な場所での見学実習を1年生の早期から経験することで、変化が生まれた。具体的には、地域で元気に生活する高齢者の実態や、坂道が多いといった地域の具体的な特性を肌で感じ、理解を深めることができた。

さらに、「車がなくても生活できる方法があるのではないか」「子供たちは地域でどのように遊んでいるのだろうか」といった、これまでとは異なる多角的な視点を持つきっかけになった。これらの見学中心の実習であっても、学生にとっては大きな学びがあり、その効果は実感されている。

そして、1年生で得たこれらの多様な経験は、2年生で行う訪問看護実習において、地域住民の生活をより深く理解し、適切な看護を考える上で確実に活かされていく。

：評価

これらの取り組みに対し、「学生の視野が広がり、着実に成長している様子がうかがえる。導入された教育が効果を上げていると感じる」との評価が述べられた。

◇卒業生の勤務状況と、その後のフォローアップ体制について

◇卒業生の法人内勤務割合は？

◇法人外に進んだ卒業生の状況把握方法は？

◇5～10年後の卒業生のキャリア（認定看護師、役職など）が気になる。

：回答

卒業生の進路に関して、法人内で勤務を継続する割合については、10%程度です。

卒業後の状況把握については、いくつかの方法が用いられています。具体的には、教員と卒業生がLINEなどを通じて個人的に連絡を取り合ったり、同窓会を通じて情報を共有したりしています。また、在学中から続くチューター制度により、卒業後も教員が相談に応じる体制があります。卒業生が一堂に会するホームカミングデーのようなイベントも検討されていますが、卒業生が全国各地に分散しているため、開催が難しいという現状があります。

離職の状況については、早期に離職するケースは比較的少ない傾向にあります。これは、多くの学生が准看護師の資格を持って入学しており、一定期間は勤務を継続するケースが多いためと考えられます。しかしながら、卒業後3年程度で離職する事例も一部見受けられます。

◇准看護師養成校の現状について

准看護学校は全国にどのくらいあるのか？

B：回答

正確な数は手元にないが、年々閉校していく学校が増えここ近年急激に減少している。。

大阪府ではかつて10数校あったが、現在は5校程度に減少。2年課程はさらに少ない。県によっては1～2校しかない地域もある。大学の看護学部が増え、准看護師養成校からの輩出数は大学と同程度になっている。

◇ICT ツールの活用状況、教材の電子化、および教育現場における DX 化の進展について

【主な内容】

A 氏より（自校の取り組みと意見）：

アンケート・情報共有：

入学時から共有 PC でアンケートを実施し、情報整理を効率化。非常勤講師への情報開示範囲も設定。

ウェブ上の仕組みは有効だが、目安箱のようなアナログ手段も併用すべき。

DX 化の展望：

政府は ICT 教育から DX へ大きく予算を投じており、専門学校にも影響が及ぶと予測。

教材の電子化・デジタルツール活用：

◇教材は全て電子化されているか？

自身は紙媒体での学習に慣れているが、現代の学生はタブレットで十分かもしれない。

自校では教科書をデジタルと紙で提供し、副教材（英語ソフト等）も活用。

小学生のタブレット利用が一般化しており、将来的にデジタル教材が主流になるだろう。

現場でも DX 化が進んでおり、PC スキルと併せてデジタルツールを効果的に活用する方向性が重要（例：色彩シミュレーション、情報検索・整理）。

：回答

DX 化への対応：

DX 化の流れは検討中。

教材の電子化状況：

看護・医療系教科書は全て電子化。英語など一部科目は紙媒体も使用。

卒業時アンケートでは、年齢層の高い学生の約 2 割が紙の教科書を希望。

タブレットは入学時に貸与し、卒業時は返却不要（教材費に含む）。経済的負担を考慮し、デジタルオンリーを基本としている。

デジタルとアナログの併用：

実習記録は手書き。2 年生になると書く作業が中心となり、デジタル教科書と手書きを併用している。